



「包装専士」※の有資格者が入会する日本包装専士会は1986年に設立から今年で39年を迎えます。日本包装専士会は包装の専門分野の深化と高度化を図る目的で開講された包装専士講座の趣旨に則り、包装専士の資質の向上と包装技術の発展に貢献する目的を達成するために設立されました。

－日本包装専士会の運営組織－



※「包装専士」とは 公益社団法人 日本包装技術協会主催の「包装専士講座」において、所定の単位を修得し、研修委員会で適格と認められた者に与えられる資格です。

包装専士講座は、コース別（食品包装・医薬品包装・輸送包装・包装材料）に国内外の技術や理論等の教育を行うプログラムが組みられ、包装技術のエキスパートを養成します。

今年度の活動 ～セミナー・未来包装研究・情報システム・展示・関西の各委員会～

【セミナー委員会】

7月7日、技術士包装物流会との共催で講演「包装廃棄物処理・リサイクルにおけるDXとカーボンニュートラルの推進」を開催。講師は藤井実氏（工学博士）、国立研究開発法人 国立環境研究所 社会システム領域・システムイノベーション研究室 室長。「きゅりあん」にて講演会、その後の交流会で71名（内、配信視聴20名）の参加があった。

【未来包装研究委員会・情報システム委員会】

TOKYO PACK 2024での未来包装研究会の成果物、コンテンツ等を専士会会員に共有するツールとして専士会ホームページを活用すべく、掲載基準を討議して作成した。これにともない、情報システム委員会にて、会員専用ページの一部改造を進め、今秋から掲載していく予定である。

【展示委員会】

来年開催のTOKYO PACK 2026に備えて、包装の歴史年表・展示パネル内容の見直しと画像データのブラッシュアップを進めている。

【関西委員会】

関西委員会では関西で独自に活動をしている。6月3日に関西ミニセミナー、今田講師（当会理事）による「飲料用ガラスびんの基礎知識と四方山話」を開催した。9月24日には小谷講師（当会理事）による「チアパックのマーケット動向」の講演を予定している。また、11月には大手飲料用ガラスびん工場の見学会を企画している。見学会は関西の他包装団体とのコラボレーションも進めていく計画である。